

山行報告書

神戸勤労者山岳会

1. 参加者 L 仲島、山本、入江、山薫

2. 山行スタイル

沢登り

3. 目的

大滝の見物

4. 山域／ルート

台高 小木森谷

5. 交通手段

車

6. 行動記録

7/20 7時00分:林道終点 — 7時45分:入渓 — 11時:ケン淵滝 — 11時30分狸谷出合(昼食) — 13時:30分 小木森滝 — 17時30分 泊地

7/21 9時発 — 9時30分 小木森滝上 — 12時 駐車場



7. 山行中の問題点・事故に繋がる要因

a) 予定のルート・日程で行動出来たか？

行程は予定通り、ヌメヌメと小木森滝の巻きの厳しさは全く想定外

b) 事故に繋がりそうな要因(ヒヤリハット)が発生したか？

特になし

8. その他、ルートに関する情報・気がついた事など記す

前回(2021年)はたぶん、フェルトでした。今回はなぜか全員ラバーなので比較のしようがありませんが、終始すべったのは単にラバーのせいということではないように思います。フェルトならば、滑るのは多少ましかもしれません。しかし、無数に現れる簡単なボルダー的な大岩のつこしの際には、やはりラバーが有効なので、結局、微妙なところでしょう。

9. 感想

【山薫】

メンバーと沢のグレードを考えると程良い緊張感で楽しめると思ってました。

オゴモリ谷。

ラバーソールのせいか時期のせいかフリクション 0。どこもかしこもツルツルで突っ張ればそのまま落ちるし、岩の上に立てばそよ風で転ぶ… 大小の荷揚げ回数は 10 回以上。2m 程度の大岩の処理が延々と続き削られました。

前回失敗した狸沢出合い手前の大滝、巻きは左岸ルンゼ手前から大巻。ルーファイ特に丁寧に。狸沢を右に見送り小木森谷へアブミやら何やらで小木森滝は 12 時頃、5 時間ほど。平均的なペースかと。

この後の小木森滝の巻きが凄かった。ルンゼは開けた源頭まで延々と上がり右手の尾根を乗っ越して小木森谷に戻ります。尾根超え、沢超えの巻きは手強いですね。遡行図の 7m の細い滝… 12m はあり、中サイズから極小までのカムが有効。一部正対では難しい部分もありました。滑りますよ！空荷をオススメします。巻き終わって幕場に着くのにはトラブル無しで入渓から 10 時間かかりました。幕場は快適です。荷揚げ覚悟、宴会装備担いで楽しんで下さい。乾杯！

【山本】

今回もメンバーに蔦さん参加。元案は岐阜 海の溝洞&川浦谷の予定が、天候の関係から、前回転戦した、南紀にある小木森谷へ沢登りに山中 1 泊に向かう。

前泊地は、三重県の大白公園で、芝生が綺麗に整備された気持ち良い所。

初日は、林道に車をデポし 7 時 10 頃に出発。林道から 7 時 50 分頃に入渓。

実は過去にこの沢で肩を痛めたナカジクンのリベンジ山行も兼ねていたが、当日は、難なくその場を切り抜けた。良かったっすね！ また、核心と言われていた、残置ハーケンにアブミをかけて上がるピッチは、ジャイケンの結果私のピッチに。立ち木とカムを要所に取りながら、終了。その後、ゴルジュ、巨岩帯を超えていくと、小木森滝が見える。この時点で 13 時頃。今回は沢内で 1 泊の予定なので、小木森滝を巻いてその上部のビバーク適地を本日のゴールとして、左横のルンゼを詰めることに。実はそこからが核心で、7m 程度の小滝を抜ける必要があるが、ヌメリがひどくなかなか緊張させられるルート。ここは流石の蔦さんリードで突破。その深いルンゼを詰めてやっと適地に到着した時間は 17 時 30 分頃。いやはや、疲れました。メンバーとの相談で今回はここで終了し明日は、小木森谷落ち口を確認し、下山することとした。

ということで翌日は、ゆっくり 9 時過ぎに出発。滝の落ち口の確認後、事前に確認をしていた、林道まで行ける道に沿って下山を開始し、11 時頃に林道に。そのまま車のデポ地に着いたのが、12 時となりました。

沢の感想としては、小木森滝の巻き道は、もっと容易なルートがあったのではないのかなという気がしているが、それは、次回行くかどうか不明であるが、その際には検討したい。また沢全体的に良く滑る。川中の岩も滑りがひどく、毎回丁寧な足運びを強いられる。乾いた様に見えた岩も良く滑る箇所もあり、乗越しに苦労する。特に登攀系はより緊張を強いられた。その登攀ルートは、残置ハーケン、リングボルト等は無く、今回はアブミを掛けたハーケン 1 本のみ。ということで、大きなカムは使用しないが、チビカムは有効なプロテクションとなる。ロープは 30m あれば問題なく、靴は今回ラバーでしたので、フェルトを推薦するが、フェルトなら滑らないとは言えないほど滑る。また大岩を登ることも多くその場合には、ラバーが有効の為、甲乙つけづらい内容。

帰路に「きいながしま古里温泉」で汗を流し、近場の海鮮屋で遅い昼食をとり帰神した。

メンバーの皆さん、初日は、お疲れ様でした。長い巻き道は、私の沢の中では、一番苦労した巻き道でした。また終始ヌルヌルの中でしたが、怪我無く終了し良かったです。ありがとうございます。まだ続きますが、今後も怪我無く、沢を楽しみたいです。宜しくお願い致します。

【入江】

2021 年に初めて行った沢で、その時はハプニングで小木森滝の少し手前で終了となった。その後も

何度も何度も計画しては天候に恵まれなかった。

そして今回は海ノ溝を予定していたけど、増水と雨天で無理となり、転戦先として急遽行くことになった。

前回はフェルト靴で行ったためかあまり滑った記憶がないけど、今回はラバーソールで行ったこともあり、とにかく滑る！滑りそうな岩はもちろん、水の中の岩も、乾いた白い岩も何もかもが滑り、常にヌルヌル昆布の上を歩いているようで、終始大緊張状態だった。それから前回は小木森滝手間の核心を残すのみだったので、それ以降のルートについては、遡行図を見るだけで苦労することもないだろうとあまり調べていなかった。

だけどそれが大間違いだった。

小木森滝を過ぎるとさらに数mのヌルヌル大岩が立ちほだかり、10 か所以上超えたと思うけど、もう大変で、何度もみんなに助けってもらって、這いつくばったり、横向けになったり、へんな体勢に何度あったことか。人がほとんど入っていないのか、先頭を行くとどこもかしこも蜘蛛の巣だらけ。そして最後に10m以上の細い滝がでてきたが、ここが最強に悪い。ハーケン1つなく、掴む岩がボロボロ取れる、足はヌルヌルで決まらない、上部へ行くほどホールドがなくなり、せまくなり、よくこんなところをリードできたものだ、すごいですツタさん。帰ってから他の記録を見ると、左岸に滝見道があり早い人でサクッと30分で抜けていたが、私たちはトラブるなしで4時間半以上かかった。

テン場が見えた時は天国に見えた。2年ぶりの沢泊はとても良い場所で、翌日もゆっくり出発となったので、ゆったり過ごすことができ、それだけは良かった。

それにしても過去最凶に悪い沢でした。打ちのめされました。自分がいかにダメダメか思い知らされた沢でした。仲間に常にフォローしてもらい、ロープなければ2回死んでたよ。みなさまお世話になりありがとうございました！

こないだは面河で物足りないと言ったところだけど、しばらくはまったり沢でいいかな。

【仲島】

2021年に遡行した際、肩を脱臼した小木森谷。とりあえず、前回、怪我をしたところまでは、すんなり行けました。そして、怪我をした場所を改めて見直してみましたが、やはり、どこの沢にもあるような普通の淵でした。なんなら、クライミングとかでは、もっと無理な体勢をとっている気がします。つまり、急に足が滑ったら、どこでも(たぶん登山道でも)怪我に繋がるということです。

怪我した淵は、リベンジということでリードをやらしてもらいました。ヌメヌメで滑るのが気になりましたが、なんなく突破できました。そもそも、滑っても下は水なので素直に落ちれば良いし、よく見れば滑らない岩もあるので、常に冷静さが必要だと改めて思いました。

ということで、順調に小木森滝の下までは来ましたが、大変なのはここからでした。やはりあれだけの大きな滝なので、過去一番に厳しい巻きでした。これほど大変だったのは、北海道のポンクワンナイ川の巻きぐらいかなと。

トポに忠実に右岸のルンゼを詰めましたが、巻きというよりはヌメヌメの細い枝沢の登攀と言った方が近いです。(そもそも記録が少ないですが)他の記録では、左岸を利用しているのは知っていましたが、下段を登る場所もよく分からなかったです。また、恐らく左岸はほとんど登山道に近いので、沢をやるには右岸のルンゼの選択は正解だったと思っています。しかし、あれだけヌメヌメだと厳しいですけど。体感としては4級でも良いんじゃないかと感じました。

何はともあれ、無事に宿題を果たせて、同行いただいた皆様には大変感謝しております。

下山後の海鮮丼は美味しかったです



↑ 小木森滝 (150m) の上ではしゃぐYとM



↑ ヌメヌメ滝を渾身のリードで突破、Yさん

報告者氏名 仲島拓郎

令和 6年 7月 28日